

令和4年4月8日

※ **新しい学年、新しい学期初め・・・始めたら始まり**

この四月に吉田高校に赴任してきて、最初に目を引いたのが校舎横の桜です。見事に咲き誇っていました。梅の花や菜の花などが野山を彩るこの季節は、始まりの季節です。始まりは、季節や月日など勝手に始まってくれるものもと、何かを始めようと気持ちを持たないと始まらないものがあります。植物が新しい芽を吹いて、すがすがしい季節、何かを始めるのに絶好のときです。

- ・3年生はいよいよ最高学年として、これから自分の将来をしっかりと見つめるとき、部活動の集大成や進路実現に向けての始まりです。
- ・2年生は、高校生活にも慣れてきたところです。3年生に負けず、これから入学してくる1年生の手本となるよう、さらなる挑戦への始まりです。始めたら始まりです。

※ **昨年度の大きな話題から**

昨年度、ノーベル物理学賞を受賞した真鍋叔郎さんが、本県の出身、現在四国中央市の新宮町もともと新宮村の前身新立村（しんりつむら）の出身ということもあり、愛媛県で話題になりました。いろいろなところで「好奇心を持つことが大切である」という言葉を聞かれたことでしょうか。自然に囲まれた場所で好奇心を持つことが偉大な研究につながっていることに注目してほしいのです。

そのほか、もとZOZOタウン社長の前澤友作さんが宇宙旅行に行ったことは誰もが知っていることです。同行したマネージャー平野陽三さんも愛媛県今治の生まれです。その手腕と語学力を評価されての同行となりました。努力していると人から評価され思わぬチャンスがやってくるということにつながるということです。

吉高生も何かやってやるぞと思っている生徒がいると信じています。熱い思いを持ってください。

この数日間本校をうろうろして様子を見せてもらいました。

体育館でバレーボールの熱心な指導を一生懸命に受けている男女の選手の姿や、ハンドボールや陸上競技、校内のどこからともなく吹奏楽の音や歌声も聞こえてきて、少ない人数でも教室で一心不乱に何かに取り組んでいる姿を目にしました。赴任する前に、春季四国高校野球県大会吉田高校と小松高校の対戦を観戦させていただきました。実は、前任校の前に勤めていたのが、小松高校で吉田高校との対戦についてこういう機会は滅多にないと思い、丸山球場に行きました。1点もぎ取った時には、粘り強さを感じました。木工や溶接を行っている生徒も見ました。密かに努力している生徒がいることを知り、うれしく思いました。

私は、高等学校は、友人、仲間を作り、活動することで成長する場所だと考えます。変化の激しい社会と言われますし、答えのない問いに向かう時代ともいわれます。AIにとってかわられる仕事も多いという予測もあります。これからどんなことに巡り合っても乗り越えて、生き抜く力をつけてほしいと願っています。

※ **精神（こころ）を修め、知と技を練る吉田高校・・・情理一体の学校教育**

私のテーマは、「**情理一体**」です。情理の情は、情熱や感情の情です。心の部分です。情理の理は理性や定理の理です。知識・技能の部分です。校門をくぐると校舎に精神（こころ）を修め、知と技を練る吉田高校と掲げてあります。精神（こころ）を修めることは、情的感受性を育むこと、知と技を練ることは、理的感受性を育むことです。バランスの取れた成長が将来につながると信じています。

普通科も工業科も、これからの社会を生き抜く力を身に付けるため、先生方とともに進んでいきましょう。

このことをお願いして、始業式のあいさつとします。